

# 利根川進博士、来る

去る9月2日、ノーベル医学生理学賞受賞者、利根川進博士に来学頂きご講演賜る機会を得ました。京都大学の学生時代に始まり、ノーベル賞の対象となったBリンパ球“抗体遺伝子”再構成の発見、そして近年の記憶のメカニズムに関する研究まで、感動に満ちた講演会となりました。

今思い起こしても、1970年代後半、利根川研究室から次々に発表された“抗体遺伝子”再構成に関する論文が世界に与えた衝撃は計り知れないほど大きかったのです。多くの若い研究者や学生は、当時まだ普及していなかった分子生物学の手法による、論理的で説得力に満ちた美しい実験データに魅了され、そしてそれが導き出した「細胞の機能分化とともにゲノム構造が変化する、逆に言えば、ゲノム構造の変化が細胞の機能分化をもたらす」という想定外の大発見に驚愕し興奮したのです。今日まで日本の生命科学をリードしてきた現在50～60



歳代の科学者たちの多くが、その時期、博士の研究に触発され研究者人生を選択したのです。私自身も、その一人です。懐かしい思い出です。

その当時から現在まで、利根川研究室からは、多くのインパクトの高い研究成果が量産され、綺羅星のごとく有為の若手

研究者が輩出され続けています。博士に、その極意をお尋ねしたら、「若手の自主性を大切にして細々と指導しないこと」という答えが返ってきました。研究テーマの選択も任せるのだそうですが、ただ「そのテーマを達成することが世の中の常識を覆すことにつながる

だけの価値があるかどうかを考えなさい」とアドバイスするのだそうです。研究者としての志を最重要視されているのです。

志を高く持って研究に没頭すれば、苦勞はしても、必ず心が震える感動を体験することができる。研究者とは、そんな職業なのです。

長崎大学長 片峰 茂

## CONTENTS

長崎大学広報誌  
[チヨホー]  
Choho Vol.49

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	利根川進博士、来る	1	表紙のはなし
特集	大学教員への道	2	秋空に高らかに管楽器の音色が響き渡って、まもなく長大祭が始まります。今回登場してもらったのは、長崎大学が誇る「スイングポート・ジャズ・オーケストラ」の面々。さまざまな学部から集まる部員は現在45名。何でも今年は、結成して50周年なのだそうです！毎年1月に行われる定期演奏会でも50周年記念ステージを企画中とか。楽しみですね。
大学の研究最前線	「モノ」を拾い集め、探るセラミック・ロード	11	
長崎大学のいま!	歯学部	13	
卒業生に聞く	下田杏奈さん	17	
グラバー図譜	アカヤガラ	19	
Information	長大祭2014ほか	21	
	長崎大学「通」クイズ	22	
	編集後記	22	